第2学年通信「青」

令和４年２月２５日（金）発行
多摩市立聖ヶ丘中学校
第２学年
第４０号

～学年道徳「未来へのバトン」の授業を終えて～　その２

多摩市の良さを振り返って授業を開始した後は、「未来へのバトン」という教材を読んで考え、意見を発表してもらいました。

教材の内容は、多摩市制５０周年記念に行われた４０年前に埋めたタイムカプセルの開封イベントについての話です。最後に「多摩市の未来について考えるとき、どんな市になっていてほしいか、また、３０年後の多摩市とどう関わっているか」を想像してもらいました。数人の意見しか紹介できませんでしたが、ロイロノートに皆さんの意見が出ているので、見てください。

実は、この授業にあたって、市役所でタイムカプセル開封イベントの担当をされた多摩市企画政策部企画課の永井陽介さんから皆さんにメッセージをいただいていました。時間の関係で全て伝えきれなかったので、ここで生徒の皆さんに紹介します。

～多摩市役所　永井陽介さんから中学生の皆さんへ～

このタイムカプセル事業は、市制施行当時、ニュータウン開発等により、全国からたくさんの人々が多摩市に転入してきて、皆で『新しいまち』を作っていく中で、多摩市を皆の『ふるさと』にすることが、市政の重要な役割の一つでした。

40 年前のタイムカプセル事業も、その考え方のもと、企画・実施されたものです。

個人的には、皆さんには、郷土を愛するのに特別何かすることを望むわけではありませんが、ぜひ、日々の生活の中で、今の多摩市の姿を脳裏に焼き付けて、覚えておいてほしいなと思います。

ここの公園にこういう遊具があったとか、この商店街にこういうお店があったとか、記録に残らないようなもっと細かいことでもいいですが、案外そうした記憶が、大人になったときに共通の話題になったり、別の街に引っ越してその街と比較して多摩市を思い出す材料になったりして面白いですし、郷土愛にもつながるのかなとも思います。

どうしても若い世代は市外に出ていってしまうことも多いですが、皆さんにはぜひ、今後何十年も、多摩市に関わっていただければ嬉しく思います。

授業の感想に、「多摩市で働きたい。」「これからも自然が多く、活気溢れる市でいてほしい。」「自分が住んでいるかわからないけど、親がここに住むと思うからボランティアなど多摩市に関われるようにできていたら嬉しい。」「３０年後に永山北公園で皆に会えたら嬉しい。」「堂々と好きと言える市になっていてほしい。将来、多摩でみんなに会いたい。」「たくさんの人に愛され、自慢できるようなところにしていきたい。」「子育てするなら多摩市に住みたい。」など、バトンを受け取った皆さんのコメントは心強かったです。

３０年後、永山北公園でタイムカプセル開封イベントがあります。大人になった皆さんと再会できたら嬉しいです。私は参加します！これからも地域の一員として、この魅力的な地域を大切に守り、発展に努めていきましょう！！

（授業担当：三浦 摩利）

【来週の活動予定】～先の見通しを持って生活しよう～

日付	1	2	3	4	5	6	備　考	給食
28日（月）	授	国	技家	美			第4回定期考査（最終日）	×
3月1日（火）	学	授	授	授	授	授	安全指導	○
2日（水）	授	授	授	授	総		⑤人権教育講演、数トレ、Eトレ	○
3日（木）	授	授	授	授	授	総	作品展準備	○
4日（金）	授	授	授	授	授	授	作品展示始	○
5日（土）	総	総	総				授業日　①②未来トーク　③作品展見学	×